



特定非営利活動法人日本防災士会 富山県支部

富山県防災士会会報

第8号

平成26年3月10日
発行 富山県防災士会
連絡先 090-5173-7430
(事務局：黒畑)

小学校防災教室「家族で防災会議」

今年度、「災害に強いまちづくり」を提案した富山市公募提案型協働事業の一環として、11月には3地区の小学校5年生を対象に防災教室とアンケートを実施した。

防災教室は「地震に備える～今、できること」をテーマに行い、授業参観日に併せて保護者も参加されたり、避難訓練後に実施した学校もあった。45分という限られた時間だったが子ども達は大変興味を示し、真剣に参加していた。

内容は阪神淡路大震災のビデオ視聴後、東日本大震災で

「釜石で守った命」を紹介し、繰り返した避難訓練で「自分の命を守った」こと、家族で防災について話し合うことの大切さ、地震の大きな揺れで家の中に潜む危険に気づくことにより「どのようにして自分の命を守るか」を考えさせた。防災教室終了1ヶ月後に3校227名を対象にアンケートを実施した。結果は概ね次の通り。



荻生防災士による防災教室

結果は概ね次の通り。

◇防災会議は66%の家庭で実施

家族で防災の話し合いが持たれたのは66%で、子どもたちから親に向けた取り組みは大きな効果があったと見てよい。その結果として半数以上が「懐中電灯を準備」「避難場所の確認」をしている。また「落ちてこない」「倒れてこない」ように「移動した、固定した」も50%に達していることも大いに注目できる。その他に「非常持出品を準備」「すでに準備していた物を点検した」「寝室にスリッパを準備した」等いろいろな取り組みが見られた。

◇災害が発生したとき、あなたの役割は

また、5年生として「あなたの役割は何ですか」という問に対して「弟、妹の面倒を見る」「お年寄りの面倒を見る」「ペットの世話」等、主に家族を守る役割が多かった。また、率先避難者として「大声で近所に知らせる」をあげた児童もあり、近隣・地域の命を守ることに大いに期待できる。「助けられる立場」から「助ける立場」になって災害に積極的に取り組み、小学校高学年としての役割を持つことは自立を育むものと考えられる。

◇我が家の防災自慢は

最後に「わが家の防災自慢は何ですか」という質問では「寝室には倒れてくるような家具は置いていない」「家具は固定してある」「防災ニュースを聞いていつも話し合っている」「災害時の役割分担が出来ている」「非常持出し袋は家族分用意してある」等々沢山の防災自慢があげられ、意識の高さが窺えた。(小杉記)

防災士の活動は居住地中心に転換を！

提言

副会長 中川 勲

富山県防災士会は、平成19年5月に6市1町の20名の会員で発足した。同年9月末時点の富山県内の防災士認証者数は146名だった。当初の主な活動は、県と富山市の総合防災訓練会場での震災写真の展示、ロープワーク実技等の啓発活動と年末の外部の専門分野の講師による研修会の実施だった。平成20年度から、富山市の自主防災組織の出前講座への講師派遣(22会場670余名参加)と共同募金会補助金で防災啓発パネルを作成し、総合防災訓練会場での展示啓発活動を開始した。

平成26年1月末時点の富山県内の防災士認証者数571名。認証防災士数が10名以上の市町村と富山県防災士会会員も10市4町に拡大した。会員数も設立当初の4.7倍の95名となった。この様な富山県防災士会を取り巻く状況の変化をうけ、『会の活動は全県を主体とする活動から、市町村単位を中心とする活動に転換して、市町村に在住する全ての認証防災士が連携して居住地の防災力の向上に直接寄与できるよう、富山県防災士会として協力していくことが求められている』と考える。

【平成25年度に実施した主な活動】

- ①総合防災訓練(県と6市2町の12会場に防災士が延65名参加 1市中止)
- ②富山市防災講座(48会場)、その他市町村・団体(26会場)、学校関係(5校)、四季防災館事業(9講座)の計88の防災講座を実施、延4900余名が参加
- ③外部専門講師による研修会3回、会員講師による研修会を1回開催
- ④防災施設見学会を1回実施、⑤会報を3回発行

平成26年度通常総会開催のご案内

日時：平成26年3月22日(土) 午後3時00分～5時30分
場所：ウイング・ウイング高岡 7F、学習室
高岡市末広町1-7 (JR高岡駅前)
TEL：0766-22-5787

内容：

第I部 特別講演(午後3時00分～4時00分)

演題：『知られざるもうひとつの立山』

講師：立山カルデラ砂防博物館 館長 今井清隆氏

第II部 通常総会(午後4時00分～5時30分)

①平成25年度事業報告、決算報告等

②平成26年度事業計画、予算等

③会則の一部改定(案)、④役員の一部変更(案)、⑤その他

※懇親会(総会終了後 午後6時00分からの予定)

場所：高田屋(ウイング・ウイング高岡 1F)

会費：5,000円 申込みは3月20日までに事務局へ

南海地震の影響について学ぶ

平成25年度研修会を昨年11月30日、富山国際学園サテライト・オフィス（富山駅前 CiC ビル）で開催した。

富山大学大学院教授 竹内 章氏に『南海トラフ巨大地震に関係する富山の誘発地震ハザード』について講演をしていただき、とても詳細で具体的な知見を得ることができた。

講演内容は概ね次の通り。

●地震の発生確率計算式は海溝型も活断層型も同じ。しかし、活断層型は平均活動周期が長いので、30年間の発生確率では、数値が小さく出る。活断層型での発生確率6%は、十分高い値と言える。



講演する竹内 章教授

●北陸では海溝型の地震と津波は起きない。しかし、南海トラフの巨大地震に連動する活断層型の地震が発生する。（活断層地震は、海溝型地震と連動する。）

津波の要注意の波源は、富山トラフにある。

●震災では複合シナリオを前提として考える必要がある。

- ・もし岸壁で液状化があったら⇒ 堤防の耐震裕度が必要
- ・もし増水時に津波が重なったら⇒ 神通川では天然ダムができ、冠水・洪水の恐れがある。
- ・もし海底で斜面崩壊があったら⇒ 津波が発生することがある。

避難所運営ゲーム(HUG)と一次救命処置を学ぶ

会員相互研修

2月8日、高岡市福岡防災センターに於いて、平成25年度会員相互研修会を行った。研修内容は、避難所運営ゲーム（体験）と一次救命処置（訓練）。

① 避難所運営ゲーム(HUG)

昨年8月に静岡県地震防災センターで開催された日本防災士会主催のHUG指導者養成講座を受講した村崎、黒畑両防災士が講師を務めた。HUGは避難所開設直後に殺到する避難者や出来事への対処方法を模擬体験できる様に静岡県が開発したゲームで、避難者の状況やイベントを記載した250枚からなるカードを使用する。



ゲーム後、グループで意見交換

手法の概要を説明後、4グループに分かれてゲームを体験した。

ゲーム後、判断に迷ったことについてグループ間で意見交換した。

② 一次救命処置(BLS)

関防災士（日赤指導員）が心肺蘇生法とAEDの操作法について実技指導した。この種の講習は昨年度も行っているが、いざという時、迷わず動けるように繰り返し訓練しておきたい。



心肺蘇生法の実習

富山県初の女性防災士として

抱負

防災士(富山市) 笹川 寮子

私が防災士を知ったのは消防士が読む雑誌の記事でした。消防士を目指していましたが残念ながら夢は叶わなかったけど、防災士なら出来るんじゃないかと試験を受けました。無事合格し第一歩を踏み始めました。受かってからは消防士から「女のくせに」と、陰口もありました。ものすごく悔しかったことを覚えています。



過去には災害救助犬指導手（ハンドラー）もしていました。そうした中で震災が起き色々と考えさせられました。できることはやろうと、応急手当指導員・普及員、災害救援ボランティアコーディネーター、愛玩動物救命士、アニマルナースの資格を取得し活動してきた中で、人間も動物も無駄な命は一つもないということ、同じ命であるということを実感しました。災害時には男性も女性も関係なく、ハード面やソフト面でフォローができるのではないかと、要援護者に対する健常者からのフォローも考えさせられました。

行政機関を待つのではなく、自分たちで動くという事、それが当たり前になっていく様にならなければなりません。こうした中で女性として出来ることをこれからも探し出し、女性でも出来るという事を知ってもらうために力を入れていきたいと思っています。そして、動物たちの命も救っていきたくと思っています。

地元の校区で防災講座

『三郷の安全は誰のものか』

防災士(富山市) 野田 隆志

昨年4月に県防災士会に入会させてもらったばかりの駆け出し防災士です。2月16日、富山市水橋小路の三郷地区センターにおいて、三郷校区自治振興会と三郷ふるさと作り協議会の主催で、自主防災組織のための防災講座に講師として参加しました。



校区21町内会のうち自主防災組織ができていたのが5つと、低い結成率でもあり、自主防災組織のない町内会や地域の民生委員などにも参加を呼びかけ、およそ80人に出席していただきました。

校区が常願寺川や白岩川の流域に有り、過去には水害との凄絶な戦いを経験していることや、震度7想定地区が広がっていることなどを強調しながら、校区特有の課題に集中して講演を進めました。この講演会をきっかけに、三郷校区の方々の防災に対する行動変容がどれだけ起こるかが今後の大きなポイントだと思っています。

《編集後記》富山県は積雪が少ない今冬ですが、甲府市では過去最高の積雪114センチをはじめ関東を中心に大雪被害に見舞われ、交通や都市機能がマヒ状態、山間部では数日間孤立状態が続きました。甲府では100センチを超えても特別警報は発表されず、危険が迫っていても運用されないという課題をまとも感じました。（三井）

